

令和4年度第3回尼崎市文化財保護審議会会議録要旨

- 1 日 時
令和5年2月22日(水) 午前10時00分～12時00分
- 2 場 所
尼崎市立歴史博物館3階講座室
- 3 出席委員
委 員 伊 達 仁 美
委 員 川 口 宏 海
委 員 長 谷 洋 一
委 員 綿 貫 友 子
- 4 出席した事務局職員
社会教育部長 橋 本 貴 宗
歴史博物館長 伊 元 俊 幸
歴史博物館文化財担当係長 桃 谷 和 則
歴史博物館文化財担当学芸員 高 梨 政 大
歴史博物館文化財担当学芸員 井 上 亮
歴史博物館文化財担当学芸員 新 里 遥
歴史博物館文化財担当学芸員 服 部 早 希
歴史博物館文化財担当学芸員 楞 野 一 裕
- 5 開 会
司会進行 伊元館長
- 6 挨 拶
橋本部長
- 7 議事等

議事1「令和4年度尼崎市指定文化財候補物件の調査について」を議題とし、「東大寺大仏殿油納所枡注文」の調査を実施した。事務局から概要を説明し、候補物件を実見しながら、調査を行った。

- ・長器とあるので、四角い枡でなく、長方形の枡である。
- ・永村眞氏の著書『中世東大寺の組織と経営』の中に本史料があり、内容がほぼ一致するが、1行抜けており、1つ目の文字も読めていないことから、別の写しがある可能性も考えられるが、内容・筆跡は鎌倉時代で間違いが無いと思われる。
- ・小杉楡邨は徳島藩出身であるので、徳島県立博物館の長谷川賢二氏に候補物件の画像を見て頂いた所、口頭であるが小杉のものと似通っているので小杉のものでよいのではとのことであった。
- ・小杉はバラバラになる前に補写したのか、バラバラになる前の物を見ており、明治21年には、今の状態のバラバラになっていたのか、補写したのか。
- ・間は欠けているが、ここまでの同様の物、写しが有って、ここだけが欠けていたので、補写したと思われる。

- ・小杉は、補写した所まで一体のものであったと知っていて、見せるために補写したということで、明治21年の段階でバラバラになっていたという理解であっているか。
- ・明治21年の段階でこの欠けた間の部分は無かった。
- ・小杉は本史料をどこで見たのか。
- ・「東大寺に於いて」とあるので、東大寺あったようである。
- ・明治21年の段階では東大寺にあった。
- ・東大寺にあった。
- ・そこから流出したのか。
- ・東大寺文書は、かなり色々な所に流出している。当館が所蔵している摂津職河辺郡猪名所地図も元をたざせば東大寺文書である。
- ・一斗枡はかなり大きい。
- ・各地で枡の大きさに違いがある。
- ・油は何油を使っていたのか。
- ・当時はおそらく荏胡麻油でないかと考えている。
- ・油を賄う料所となっているが、この時期は直接油と関係が無くなっていると考えられる。
- ・寺内の財務関係を担ったのが燈油聖で、計算能力に長けた人物で、油料の現地調達から、それにかかる計量等も担っており、計量の基本となるのが、この史料である。
- ・法会で使用する油・燈籠等を灯す日常遣いの油などに使う。
- ・史料に尼崎との関連が無いように見えるが、東大寺は畿内・西日本に広大な所領を持っており、瀬戸内海沿岸の所領からの荷は、兵庫津ないし尼崎、大物で荷揚げされ、経由地として非常に重要であった。史料では、たまたま3ヶ国しか出ていないが、他にも荘園が一杯あるので、枡は全体の計量に係る史料となっている。納める側は少なくしたいし、収納側はきっちりと納めさせたい、その差額が大きくなるので、その辺をきっちりと把握する必要性があったので作成されたもので、ここで書かれていない地域のものもあったと考えられる、同じものか分からないが、係る史料が作られたと考えられる。東大寺の経営に係る鎌倉時代中後期の史料として全国的に重要である。
- ・次に物流、特に荘園からの年貢関係の輸送の中継地が尼崎である。それは、東大寺にだけに係らず、西日本の荘園からは、中継地として重要であることが関係してくる。
- ・また枡の基準を示している史料、各地で異同がこれだけあることが分かるということも重要である。
- ・東大寺で計量し直すのか。
- ・現地で寺側から下司等が派遣され、立会の下計量され、それが納められてから、それがどのくらいの量になっているか油納所で計量されていると思われる。
- ・ここに記載されている国は、いわば、御膝下の国で、伊賀は田畑より、山林、黒田庄の杣が非常に重要であった。
- ・東大寺の荘園・経営に係る史料であって、尼崎に留まらず全国的にも重要な史料である。
- ・油は大仏殿だけで使用したのか。
- ・東大寺全体で使用したと考えられる。
- ・東大寺の僧は、学問僧と寺の内外の雑務を担う僧と別れており、勸進僧は最初は正式な僧で無かったが、鎌倉時代、南都焼き討ち等の後から、実務能力に長けた人材が重要に

なり、財務を握ることから大きな力を持つようになっていった。

- ・油倉は。
- ・油納所が後に油倉となった。油倉となっているが寺院経済を支える部署で、今でいう財務省のようなものである。
- ・尼崎との関係は微妙であるが、全国的に貴重な史料である。
- ・永村眞氏の著書『中世東大寺の組織と経営』の引用史料との異同については、もう少し調査を進める。
- ・永村眞先生と面識があり、今も東大寺等の文書調査に関わっておられ、関西方面に来られることがあるため、私の方からも確認してみる。先生は書店の古書目録によって引用史料を紹介されている。
- ・この史料も書店から購入したもので、永村眞先生が目録を見て、当館で購入するまで、書店が持っていたものと考えられるが、異同があるのが気になっており、他に写本等あるのかとも考えており、その辺が追加で調査出来ればと考えている。
- ・信聖の文書は他にどのようなものがあるか。
- ・東大寺文書に、信聖に関わる文書が伝来している。
- ・候補物件と同時期の永仁の頃に作成された信聖関連の文書があり、燈油料所が管轄する田畑目録には枡の記載もある。
- ・そこに尼崎との関連が無いか。
- ・直接の関連はない。
- ・枡・檜枡は材であることが分かるが、それ以外は全て地名か。
- ・枡・檜枡は一般的な枡で、その他は地名と考えられる。
- ・史料の保存状態は良好である。
- ・枡の実物資料もあれば、なお良いのだが。
- ・枡の実物も東大寺には残っている。しかし、該当するものがあればよいが、枡の時代も分からない。
- ・油は、現地で搾って持ってくるのか、実の状態を持って来て、こちらで搾るのか。
- ・畿内に持って来てから絞り、そこから持って行く。住吉等で搾っていたことが分かっている。
- ・荷揚げした所で搾っている。
- ・甕で運んでいた。油甕が枚方や京都でも発掘調査で見つかっている。
- ・寺院は一般家庭と比べて、油を使うことが多く、油の調達が必務であった。その油調達の経費に充てる荘園があり管轄したのが油納所で、各荘園からの年貢を金銭に替え、その金銭で油を購入していた。候補物件に書かれている枡は油ではなく、年貢米を計量するためのもので、やがて、時代が下ると、油納所は油だけでなく、寺院経済の全体を支える組織となっていった。
- ・まだまだ、調査することはたくさんある。
- ・計量史は研究が進んでいない。基準の枡を考える上でも重要な史料である。
- ・在地に係る史料にも神崎枡など地名を付した枡が出てくるが、断片的であり、実際にその枡1斗の容量を検討することができる史料はあまり得られていない。もっと同様の史料があれば、このあたりの事は明らかになっていく。

- ・最近では、東大のデータベース・京都の文書館のデータベース等があるので、枘についても絞り込んでいける。
- ・尼崎は西日本・山陽道の物流の上で重要な場所であり、東大寺・東寺等への物品の経由地としても重要であった。その上、東大寺とは、本史料以外にも関連するものも地域には多く有り、中世寺院経営・社会経済を考える上でも貴重な史料であることから価値を表せる。東大寺の油倉（油納所）の経営に係る史料、燈油聖並びにその財務に係る史料である。実務上係る換算表であることも重要である。
- ・まだまだ、調べられることがある。

議事2「令和4年度尼崎市指定文化財候補物件の答申について」を議題とし、本年度の尼崎市指定文化財の候補物件として、東大寺大仏殿油納所枘注文(歴史博物館所蔵)について調査を行った結果、市指定文化財としての文化財的価値判断をするためには、さらに十分な審議等が必要であると判断し、当該指定候補物件の文化財的価値の評価と指定の判断については、次年度に継続して調査審議することとし、本年度については尼崎市指定文化財に指定すべき文化財は該当なしとした。

8 報告等

尼崎市文化財保存活用地域計画についての説明

事務局から、文化財保存活用地域計画作成の協議会に文化財保護審議会の委員から2名参加をお願いした。

文化財保護審議会の委員長である大場先生・副委員長である伊達先生に参加していただくこととなった。

ユニチカ記念館についての説明

9 その他

- ・今後の歴史博物館の展示計画はどうなっているか。
- ・春夏冬の館蔵資料による企画展、秋は初めて市指定文化財を指定して40周年という周年に当たるので、市内の指定文化財を集めた展示を企画しており、現在借用予定の資料の調査等寺院に協力をお願いしている。春は戦国時代展、夏は尼崎紡績展、冬は館が持っている市指定文化財を計画しており、年間予定のパンフレットも作成中で、出来上がり次第、委員の皆様にご覧いただきたく思います。
- ・尼崎市の市民の皆様には歴史的な貴重な史料が多数あることを知ってもらい、足を運んでもらい、応援してもらうことが大切である。以上